

“市民による市民のための映像祭”「市民がつくるTVF2012」
国内外から 206 作品が集まる

～14～88歳にわたる幅広い年齢層が参加、市民目線のドキュメンタリー作品が多数～

特定非営利活動（NPO）法人市民がつくるTVF（代表理事：小林はくどう）が主催する“市民による市民のための映像祭”「市民がつくるTVF（東京ビデオフェスティバル）2012」には、国内外から206作品（国内：25都道府県から197作品／海外：欧・米・アジアから9作品）が寄せられました。

市民の有志による運営がスタートして3回目を迎える今回は、14～88歳にわたる幅広い年齢層から作品が集まり、ジャンルも市民目線で迫るジャーナリスティックなドキュメンタリー作品を中心に、ドラマ作品、アート・アニメなどがバラエティに富んでいます。

テーマとしては、東日本大震災や原子力発電所に関する作品が約10本寄せられています。それに関連して、家族や夫婦、親子関係などを見つめ直す作品や、地域の歴史や古くからの伝統・文化を残しておきたいというメッセージが込められた作品が特に顕著に見られます。

現在、6名の審査委員により、入賞作品の最終審査が行われています。入賞30作品（優秀作品賞：15作品／佳作：15作品）は2012年1月までに決定、同時にNPOのホームページで公開した後、「優秀作品賞」の中から「ビデオ大賞」（1作品）を選出し、発表・表彰式（同年2月中旬予定）にて発表します。

<応募作品の傾向>

- ・震災や原発をテーマにした作品が10本。また、それを直接的にテーマとしない作品でも、作り手の価値観を大きく変え、制作や行動に強く影響を与えたことが感じられる。
- ・その例として、夫婦／姉妹／孫と祖父／親子などの家族関係を見つめなおす作品と、地域の歴史や古くからの伝統や文化、作者自身の思い出など、消えゆくものを残しておきたいというメッセージが込められた作品が顕著。
- ・市民目線で迫るジャーナリスティックなドキュメンタリー作品に秀逸なものが目立つ。
- ・中学／高校／大学と教育現場で制作された作品が多数、幅広く映像制作活動が行われている印象。
- ・テーマ設定も、震災被災地への取材から人権などの社会問題から、自然や環境変化の観察記録、仲間との絆など多岐にわたっている。

<「TVF2012」今後のスケジュール>

- 入賞30作品発表・公開：2012年1月予定。NPOホームページ（URL <http://tvf2010.org/>）にて。
- 発表・表彰式／上映会：2012年2月中旬、日本工学院専門学校 蒲田キャンパスにて開催予定。
- 大賞作品・特別賞発表：上記、発表・表彰式／上映会にて。

<「TVF2012」審査委員（50音順・敬称略）>

大林 宣彦（映画作家）、小林 はくどう（ビデオ作家・成安造形大学名誉教授）、
佐藤 博昭（ビデオ作家・日本工学院専門学校講師）、椎名 誠（作家）、
高畑 勲（アニメーション映画監督）、羽仁 進（映画監督）

（本件に関するお問い合わせは下記にお願いします）

特定非営利活動法人 市民がつくるTVF 事務局長 牛頭 進（ごず すずむ）

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-16-2 こらぼ大森 2F TEL 03-6404-6613 FAX 03-6404-6614

E-mail info@tvf2010.org

※NPO ホームページ：URL <http://tvf2010.org/>